

令和5年度第76回北海道高等学校サッカー選手権大会兼全国高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選会・令和5年度第12回北海道高等学校総合体育大会女子サッカー競技兼全国高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選会

参加報告書

昨年の網走に引き続き、今年もユース審判員2名が高体連全道大会に参加しました。

日時 令和5年6月14日(水)～16日(金)

場所 札幌サッカーアミューズメントパーク・東雁来サッカー場

日程 14日…18:00 審判会議

15日…1回戦 副審1試合・四審1試合

16日…2回戦 四審1試合

参加者の感想

■ 阿部 拓歩

○実技：自己分析



副審時は、今までの課題であったオフサイドラインとボールを同時に見ることができていないことがあった。また、プレーの予測をして動くことの大切さも感じる事ができた。

4th時は、交代の手続きをスムーズに行うことができたので良かった。また、ベンチのほうにも気を配ることができていたので良かった。

○実技：インストラクターからのアドバイス

交代時、交代する選手が複数いるときに交代ボードを同時に上にあげると、誰と誰が交代したのかがわかりにくくなってしまうため、交代ボードを一枚ずつ上にあげるとわかりやすくなる。

○感想

初めて、2種の全道大会の審判として参加して副審1試合・4th2試合を務めさせていただきました。今大会、審判員として活動している中で、主審や副審など審判員同士でよく目を合わせていることが特に印象に残りました。今後自分が審判員として活動していく中で大切なことだと感じました。今回の大会で得たことや感じたことを今後の審判活動に生かしていきたいと思います。

今大会と一緒に審判をしていただいた方々、またアドバイスをいただいた方々などすべての人に感謝をしています。ありがとうございました。

■ 鈴木 辰汰

○実技：自己分析

今回は副審 1 本、4 審 2 本をさせていただきました。

副審では、タイトで拮抗した良い試合の中で、落ち着いていい立ち位置と判定を自信をもってできたので自信にしていきたいと思いました。又、自分のフィジカルが高いレベルのゲームでも遅れることが少なかったので、自信とまだまだやらなければいけないという覚悟をもってトレーニングしていきたいと思いました。

4 審では最初のゲームの際に初歩的なミスをしてしまったので、その部分はしっかり改善していこうと思いつつながら、2 本目の試合をしました。その試合では、イレギュラーな状況がいくつもあった中で、4 審としてやらなければならないことを考え、落ち着いてベンチコントロールや負傷者対応をすることができました。しかし、ゲームが拮抗していたこともあり、ベンチを気にしすぎてすぐ注意に行ったり、少しベンチの熱が上がると反応してしまうので、そこの線引きはこれから沢山場数を踏んで獲得したいと思いました。

○感想

自分としては今回 2 種の全道大会は 3 回目で、4 種を含めると計 4 回目の全道大会への参加で、以前よりも全体的に自信をもって落ち着いて行うことができるようになってきていると感じることができました。又、判定やマネジメントも以前とは変わっているのではと感じることができ、これを地区の試合で確実にこなせるようにしていきたいと感じました。

最後に、自分が心に残った審判の言葉を紹介します。

『審判団として 4 人の人、8 つの目で試合を判定する。』

この言葉には審判として大切なことがあると自分は思いました。今回もこのような貴重な経験をさせて頂いた、オホーツク地区サッカー協会審判委員会をはじめ、大会事務局の皆さんありがとうございました。

